

## 伝統園芸植物の競演 江戸の粋を集める

株式会社 樹芸 山口 安久

浜名湖花博は「花の街」「水の園」「緑の里」の3つのエリアに分けられている。私が委嘱されたのは「緑の里」の園芸文化館である。日本の伝統園芸は世界に誇る日本の文化であり、植物に込められた伝統の価値観を後世に伝えることを開館の主旨とした。

第一室は「園芸文化・発展の系譜」と題し、江戸時代の人々の技と感性で極めて高い水準に発達した伝統園芸文化の発展とその系譜を分かりやすく紹介。

第二室は「伝統園芸植物の競演」で、文字どおり江戸園芸の叢智と精神を受け継いで、今日も生き続けるさまざまな伝統園芸植物の多様な姿を展示した。

第三室は「盆栽・装飾の技」と題され、自然の情景や時間をも凝縮して究極の技が込められ、芸術の域に達した盆栽の世界を展開。

第四室は「新たな園芸文化をめざして」と題して、生きた文化資産である伝統園芸植物をいかに保存し、いかに未来へ継承してゆくか、その意義を提言した。

以上4つの展示室と映像シアターに区分され、日本の園芸文化の全体像を概観できるように構成した。

私の担当部署は主に第二室。約40種類・800品種の伝統園芸植物を14期に分け、入れ替え展示するものである。その展示プログラムは表1のとおりであるが、5カ所の脇床を付する床の間、坪庭、屋外展示場と、それぞれ和のステージに、植物を鉢に植えてコーディネートした。

特筆すべきは、江戸時代の園芸文化を往時のままに再現する試み、輸入種を含めた現代の園芸植物を江戸時代から伝わる伊万里や瀬戸・尾張の染付けの器に調和させる試みをしたことである。

往時の園芸文化を伝える古書や古図譜を見ると、ほとんどの器が染付けの磁器類である。秀吉の時代に磁器生産が始まっている。戦乱が治まり江戸時代になると、将軍家をはじめ諸大名の間でも園芸熱が盛んになる。そして参勤交代の折に藩窯で焼成された名工による逸品鉢や水盤が江戸にも伝わるようになる。したが

って当時の図譜に見られる園芸用の器のほとんどが、当時最も高い評価を受けていた染付けの器なのである。現代の園芸界では、名品の多くは、好事家の鑑賞鉢となっていて、盆栽を含めて、これらの染付けの器に植えられることは少なくなっている。

しかし、実際に古い染付けや瑠璃釉の貼花文鉢に植えてみると、植物に気品が備わり、豊かな表情を現してくれる。江戸時代の美意識を垣間見ることができる。往時の陶工の技の凄さ、大名たちの粋な意匠にはただ驚くばかりである。

江戸の園芸文化を語るとき、同時進行した“ヤキモノ”の植物の器のことが表れないのは、明らかに片手落ちである。江戸の名工たちが命を掛けて創った鉢や水盤を、今粗末な扱いをしていることをシーボルトやフォーチュンが知ったら、きっと嘆くであろう。

ともあれ、古鉢と植物の調和は、多くの園芸愛好家に絶賛を博したことは事実である。園芸文化館を訪れた240万人の人達が、江戸の美意識に賛同を得たことも事実である。器に大いに研究課題を残したといえる。

記録的な猛暑を挟んでの187日間の開催の結果、花博会場には540万人が入場し、園芸文化館には240万人が訪れた。国際園芸博覧会の面目も果たし、大旨成功したと思っている。

だが、伝統園芸には、多くの課題を残しているように思う。大方の生産者・販売者に保存継承の意識がないことである。「その植物なら、あのナーセリーへ行け」といえる生産者が極めて少ないことである。量産するばかりで、その植物を美しく見せる努力をしていないことである。多くの理由はあるだろうが、このままでは失っていくばかりである。

先人の築いた世界に誇れる伝統文化を何とか守り育てて行きたいものである。

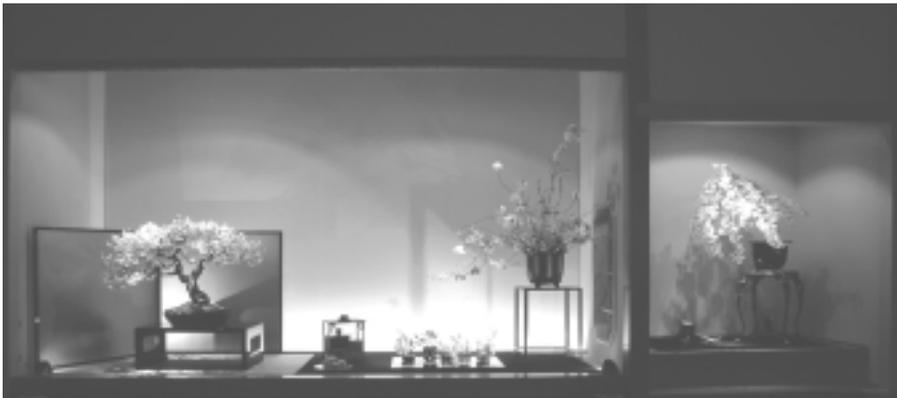
千葉大学園芸学部出身の多くの皆様にご指導とご支援を賜りました。ありがとうございました。

表1 園芸文化館第二室展示プログラム

<p><b>1期 4月8日～19日</b>            雪割草（ゆきわりそう）            木瓜（ぼけ）            万年青（おもと）            桜（さくら）            椿（つばき）            桜草（さくらそう）            花桃（はなもも）</p>	<p><b>6期 6月19日～30日</b>            擬宝珠（ぎぼうし）            斑入り植物            紫陽花（あじさい）            葉蘭（はらん）            変化葉瓦葺（へんかばのきしのぶ）            雪割草葉芸（ゆきわりそうはげい）</p>	<p><b>11期 9月1日～13日</b>            松〔五葉松〕（ごようまつ）            松葉蘭（まつばらん）            南天（なんてん）            富貴蘭（ふうきらん）            長生蘭（ちょうせいらん）            巻柏（いわひば）</p>
<p><b>2期 4月20日～5月6日</b>            楓（かえで）            細辛（さいしん）            藤（ふじ）            躑躅（つつじ）</p>	<p><b>7期 7月1日～15日</b>            富貴蘭（ふうきらん）            石菖（せきしょう）            杉（すぎ）            葉蘭（はらん）            変化葉瓦葺（へんかばのきしのぶ）</p>	<p><b>12期 9月14日～20日</b>            松〔五葉松〕            杜鵑草（ほととぎす）            南天（なんてん）            富貴蘭（ふうきらん）            長生蘭（ちょうせいらん）            巻柏（いわひば）</p>
<p><b>3期 5月7日～18日</b>            楓（かえで）            東洋蘭〔報歳・金稜辺・駿河〕            牡丹（ぼたん）            芍薬（しゃくやく）</p>	<p><b>8期 7月16日～31日</b>            花蓮（はなばす）            石菖（せきしょう）            杉（すぎ）            紫陽花〔玉紫陽花〕            石菖（つわぶき）</p>	<p><b>13期 9月21日～30日</b>            松〔赤松〕（あかまつ）            杜鵑草（ほととぎす）            南天（なんてん）            万両（まんりょう）            百両（からたちばな）            紫金牛（やぶこうじ）</p>
<p><b>4期 5月19日～6月2日</b>            杜若（かきつばた）            長生蘭（ちょうせいらん）            伊勢撫子（いせなでしこ）            臯月（さつき）            富貴蘭（ふうきらん）</p>	<p><b>9期 8月1日～12日</b>            巻柏（いわひば）            斑入り植物            松〔黒松〕（くろまつ）            大輪朝顔（たいりんあさがお）            名古屋朝顔（なごやあさがお）            肥後朝顔（ひごあさがお）</p>	<p><b>14期 10月1日～11日</b>            万年青（おもと）            山茶花（さざんか）            菊（きく）            万両（まんりょう）            百両（からたちばな）            紫金牛（やぶこうじ）</p>
<p><b>5期 6月3日～18日</b>            擬宝珠（ぎぼうし）            斑入り植物            紫陽花（あじさい）            江戸花菖蒲（えどはなしょうぶ）            肥後花菖蒲（ひごはなしょうぶ）            伊勢花菖蒲（いせはなしょうぶ）</p>	<p><b>10期 8月13日～31日</b>            巻柏（いわひば）            斑入り植物            松〔黒松〕（くろまつ）            変化朝顔（へんかあさがお）</p>	

写真提供：&静岡国際園芸博覧会協会・NHKアート・榊樹芸

## 第二室展示植物



1期 桜 床・脇床



2期 躑躅 屋外展示



2期 藤 坪庭全景（右：徳川家由来の斑入り藤）



3期 芍薬 全景



5期 紫陽花 全景



7期 石菖 脇床



10期 変化朝顔 全景



13期 菊（百種接分け菊）花舞台



13期 百両 脇床